

# あなた もっと隣国の言葉を理解したい

“異文化”と過ごす 私たちの大切な時間



皆さん、楽しく語学を学びましょう



## Passion

パッション・インタビュー

今回は、留萌ハングルサークル  
「トンアリトッポッキ」代表 富山有一さん  
にお話を伺いました。

ハングルサークル「トンアリトッポッキ」について教えてください。

今年の8月から4回にわたって中央公民館で行われたのはじめての韓国語教室に参加したメンバーのうち、教室終了後も更に勉強したいという希望者が集まったサークルです。留萌に教室があればこいつたサークルは必要なかったのですが、残念ながらそういった所もありませんので自分達で勉強する場を設けました。

名前の由来ですが、「トンアリ」というのはこの言語で「サークル」の意味です。「トッポッキ」は、お餅（日本のお餅とは異なりますが）を甘辛く炒めたものです。朝鮮半島では老若男女を問わず好まれていたそうですので、「親しみやすさ」の意を込めて名付けました。また、韓国ドラマ「冬のソナタ」をご覧になった方ならばご存知だと思いますが、ペ・ヨンジュンさん扮するチヨンサンが好きな食べ物として有名です。会員は、現在14名で、男性3名、女性11名です。

どのような活動を行っていますか。

毎月、第1・第3金曜日の午後7時から午後9時まで、中央公民館

分の目標を達成できるよう頑張っています。

この言語には英語などと比較して日本語と極めて似ている部分が多い反面、全く異なる部分もあり、いわゆる、似て非なるもの「の面白さ」があります。これは言葉だけに限らず文化全般に言えますし、韓流が日本でブームになった要因のひとつでもあるでしょう。

以前、韓国を旅行した際、日本語がとて通じる事にカルチャーショックを受けました。勿論これには過去の歴史的な背景以外の要素もあるのでしょうけれど、韓国でこれだけ日本語が通じるのに対して、日本では通じる場が少ない事に不公平さを感じ、いずれ機会があれば勉強してみたいと思っていました。韓流ブームによってそのチャンスが到来した訳です。

国際交流などという大それた考えは持っていませんが、言語の学習を通じて、結果的に少しでも隣国を理解できればと思っています。

最後に読者へのメッセージをお願いします。

私も含めメンバーの多くが初級の域を出ませんし、また教室ではなく独学を支援するサークルです。なので、全くの初心者からお教

に集まって勉強会を開いています。今は専門の講師がいませんので、「はじめての韓国語教室」で使用したテキストを用いて、2人1チームとなって順番に講師を務めていきます。勉強会の進め方は講師を務める担当者にお任せしていますのでプリントを配布したり、黒板に貼る模造紙を用意したり、CD、パソコン等を利用したりと様々です。現在はテキストで基礎的な文法を覚える勉強が中心ですが、今後は、より実践的な会話の勉強も加えていきたいと考えています。

サークルを結成してみての感想は。また、代表が考えるハングルとは。

私にとって最も楽しみな場のひとつにもなっており、サークルを発足して良かったと思っています。私自身、昨年の4月から独学での言語の勉強を始めていましたが、独学はどうしても寂しいものですが挫折しやすい面もあります。

しかし、共通の趣味を持った仲間が集いやすくと、お互いを励まし合い、意見や情報の交換もできまので、独学の欠点を補う事ができると感じています。今後は、更に個々人のレベル向上を目指し、メンバーが途中で挫折する事なく自

えできる場ではありません。

しかし、サークル自体が発足したばかりでそれ程のレベルではありませんし、全く未経験であったりも、やる気のある方ならば今から追い付く事は可能だと思います。

また、会員間の連絡や集会の補足をする時には、インターネット上の掲示板を頻りに利用していますので、そういった環境をお持ちの方が望ましいと思います。

興味をお持ちの方は是非見学にお越しください。特に男性会員が少ないので宜しくお願いします。

## PROFILE

とみやまゆういち  
富山有一さん

「トンアリトッポッキ」代表  
問合せ  
中央公民館 木村まで  
TEL 0164-42-3333



## 留萌の元気発見！ 留萌びと倶楽部



野口 夏希さん  
のくち・なつき

第4回日韓青少年冬季スポーツ交流事業に選出され、1月20日から1月26日まで、韓国に行っていた二人から話を聞きました。一人目は、港南中学校1年生の野口さんです。野口さんは、クロスカントリースキー競技の代表として、北海道から韓国に派遣されました。

Q、クロカンを始めたきっかけは？

私の兄が、クロカンをやっているのを見ていて、自分もやってみたくて始めました。小学二年生の時です。

Q、韓国に行つて印象的な出来事は？

交流会やタイムレースに参加した事やオリンピック記念館に行った事です。韓国のキムチを食べましたが、辛くて甘くてとてもおいしかったです。

Q、韓国に行つた感想は？

韓国に行く事が出来て、プラスになったと思いますが、もっと相手の言葉が解れば、コミュニケーションが取れる事ができたのにも思いました。機会があればまた、行ってみたいです。

Q、将来の夢は？

将来の夢は、まだ考えているところですが、今は学校で友達と過ごす時も、クロカンをしている時も、どちらも楽しいので、今しかできない事を精一杯頑張りたいと思っています。



小川 徹朗さん  
おがわ・てつろう

二人目は、北光中学校1年生の小川さんです。小川さんは、アルペンスキー競技の代表として、北海道から韓国に派遣されました。アルペンを始めたのは、小平や神居岩スキー場で、上級生がかっこよくスキーを滑る姿に憧れて、小学4年生から始めたそうです。

Q、韓国のスキー場で感じたことは？

訪れた場所がリゾート地だったようで、アジア系以外の人々も沢山来ていて、人の多さにびっくりしました。

今回体験した韓国のスキー場は、普段、滑っているスキー場よりも、氷のように斜面が硬く、ターンすることがとても難しかったです。

韓国の中学生の滑る姿を見たり、実際に滑ってみて、スムーズに曲がるためには、しっかりと踏み込むことが大切だということを感じました。そういうことを肌で感じる事ができたので、とてもいい経験をしたと思います。

Q、今後の目標は？

来年も北海道強化指定選手になることと、全国中学スキー大会に出場できるように頑張りたいです。

中学生生活は、スキーでいい成績を残して、さらにレベルアップを図って行きたいと思っています。